

国連生物多様性の 10 年日本委員会
今後の事業枠組について（案）

1 . 目標

国内の幅広い層に対し、愛知目標の達成に資する具体的な行動を促す重点期間である「国連生物多様性の 10 年」において、生物多様性の主流化を目指し、愛知目標の達成にむけた各セクターの参加と連携による具体的な行動を推進

2 . 基本的考え方

国連生物多様性の 10 年日本委員会（UNDB-J）は、国、地方公共団体、事業者、国民及び民間の団体の参加を促し、国内の様々なセクターによる生物多様性に関する取組を促進し、情報交換及び連携を進めるため、以下の事業を実施

- 1) 愛知目標の達成のために有効な方針の検討
- 2) 愛知目標の達成に向けた各セクターの活動に関する意見や情報の交換
- 3) 本委員会の目的に合致する連携事業の認定
- 4) その他、生物多様性に関する社会の認識の向上に資する事業等の実施に係る方針の検討等

3 . 事業メニュー

以上を踏まえ、UNDB-J は、以下を有効な方針として定め、当面、別紙の事業を主体的に実施

- 1) 対象に応じた効果的な CEPA（Communication, Education & Public Awareness）活動の展開
- 2) 多様なセクター間の連携の促進
- 3) 地域の様々な活動の発掘と広報等
- 4) 震災復興と生物多様性に関する活動の実施

国連生物多様性の10年日本委員会事業（案）

国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）は、当面、以下の事業を主体的に実施

1．生物多様性全国ミーティング

- ・全国の様々なセクターが一堂に会して、生物多様性に関する取組を発表し、意見や情報を交換する場として、1年に1回程度開催

2．特別事業

- ・各年度においてトピックとなるテーマに関する事業を特別事業として実施

3．生物多様性地域セミナー、ワークショップ

- ・各地の環境パートナーシップオフィス（EPO）や青少年団体、大学等と連携・協力して、各地で地域セミナーやワークショップを開催

4．連携事業の認定

- ・国際自然保護連合日本委員会（IUCN-J）が実施する「にじゅうまるプロジェクト」の登録事業等の中から、「多様な主体の連携」、「取組の重要性」、「取組の広報の効果」などの観点から、UNDB-Jが推奨する事業を認定

5．個別事業

- ・生物多様性に関して、様々な対象を想定しつつ、効果的な普及啓発活動を行っていくため、多様な個別事業を展開
- ・地球いきもの応援団、My 行動宣言、グリーンウェイブ、各種ツール・アイテム等の把握・評価・開発・活用（UNDB-J 推薦図書等）、広報誌の発行など、様々な主体への働きかけを実施

6．ウェブサイトによる発信

- ・UNDB-J のウェブサイトにより情報発信を実施

連携事業の認定について（案）

生物多様性の主流化による愛知目標の達成に向け、20の個別目標の可視化と達成の促進のために、IUCN-Jが実施するにじゅうまるプロジェクト登録事業等の中から、「多様な主体の連携」、「取組の重要性」、「取組の広報の効果」などの観点から、UNDB-Jが推奨する事業について認定を行う。

企業・団体・
NPO・個人等

愛知目標の達成について何が
できるか考え、20の目標から
自分たちの取組が寄与するもの
を選ぶ

登録



IUCN-Jによる
選定・審査
登録事業A
登録事業B
登録事業C.....



認定

国連生物多様性の
10年日本委員会
(UNDB-J)

UNDB-J
による
選定・審査
認定事業A
.....

■インセンティブ(案)

- UNDB-J認定ロゴマークの使用
- UNDB-Jによる積極的な情報発信等

国連生物多様性の10年日本委員会
平成24年度事業概要(案)

1. 生物多様性全国ミーティング

- ・11/3に横浜市で開催。10/27の「ヨコハマbデイ」(主催:CEPA ジャパン)や11/3の生物多様性自治体ネットワーク定期総会・フォーラム等と連携
- ・UNDB-J委員等による発表、各セクターのトップランナーによる優良事例発表、ポスターセッション等を実施
- ・来年度の開催地は、自治体ネットワークとも協議の上で決定

2. 特別事業

(1) リオ+20 サイドイベント(6月:ブラジル)

- ・6/18にジャパンパビリオンにおいて「生物多様性と震災復興」をテーマとするイベント「KIZUNA MESSAGE for Biodiversity」(仮)を開催(主催:UNDB-J、経団連自然保護協議会、イオン株式会社、公益財団法人オイスカ)

「自然と共生する未来へ向けた世界子ども会議 in 東北」(5/12~5/13:宮城)の活動報告や、子供たちによる共同宣言「未来への約束」等を実施するほか、UNDB-Jの活動をパネルで紹介

(2) COP11 サイドイベント(10月:インド)

- ・UNDB-Jの活動をパネルで紹介するなど、詳細は今後検討

3. 生物多様性地域セミナー、ワークショップ

- ・自治体ネットワークと相談しつつ、取り組みが積極的な自治体・地域と調整し、年4回開催
- ・COP11開催前の機運作り、COP11後のフィードバックや、次期生物多様性国家戦略を受けた地域戦略作りのレビュー、各地方の優良事例発掘等を促進

4. 連携事業の認定

- ・認定の基準やプロセスを策定
- ・UNDB-J及び各委員等から各セクターに働きかけ
- ・連携事業の認定に係る「にじゅうまるプロジェクト」登録事業数の拡大を図るため、関係省庁の関連事業を登録するほか、自治体、事業者、NPO等への登録の働きかけを強化

5 . 個別事業

【新たに実施する事業】

(1) UNDB-J 推薦図書等

- ・生物多様性の普及啓発に資する書籍、映像、各種グッズを推薦ツールとして選定
- ・各種イベントでの展示や、流通店舗や書店等の実店舗を有する事業者との連携により、一定期間、生物多様性ブックフェア等の実施を検討

(2) 冊子・ニュースレター

- ・一般生活者を対象とした生物多様性の主流化や UNDB-J の活動紹介を目的に、普及啓発用の小冊子「Iki・Tomo (いきとも)」を、年4回(7月・10月・12月・3月頃)発行

【これまでの取り組みを強化する事業】

(3) 地球いきもの応援団

- ・応援団の中から「生物多様性リーダー(仮)」を任命し、生物多様性の普及啓発を強化
- ・新たに自治体のキャラクターを応援団とし、生物多様性キャラクター「タヨちゃんサトくんとなかまたち」等との「ゆるキャラ協定(仮称)」を締結

(4) My 行動宣言

- ・全国の動物園、水族館、植物園、博物館入場の際の手続きで宣言するスキームを開発し、夏休み期間などに限定して、キャンペーン的に試行実施できるように検討

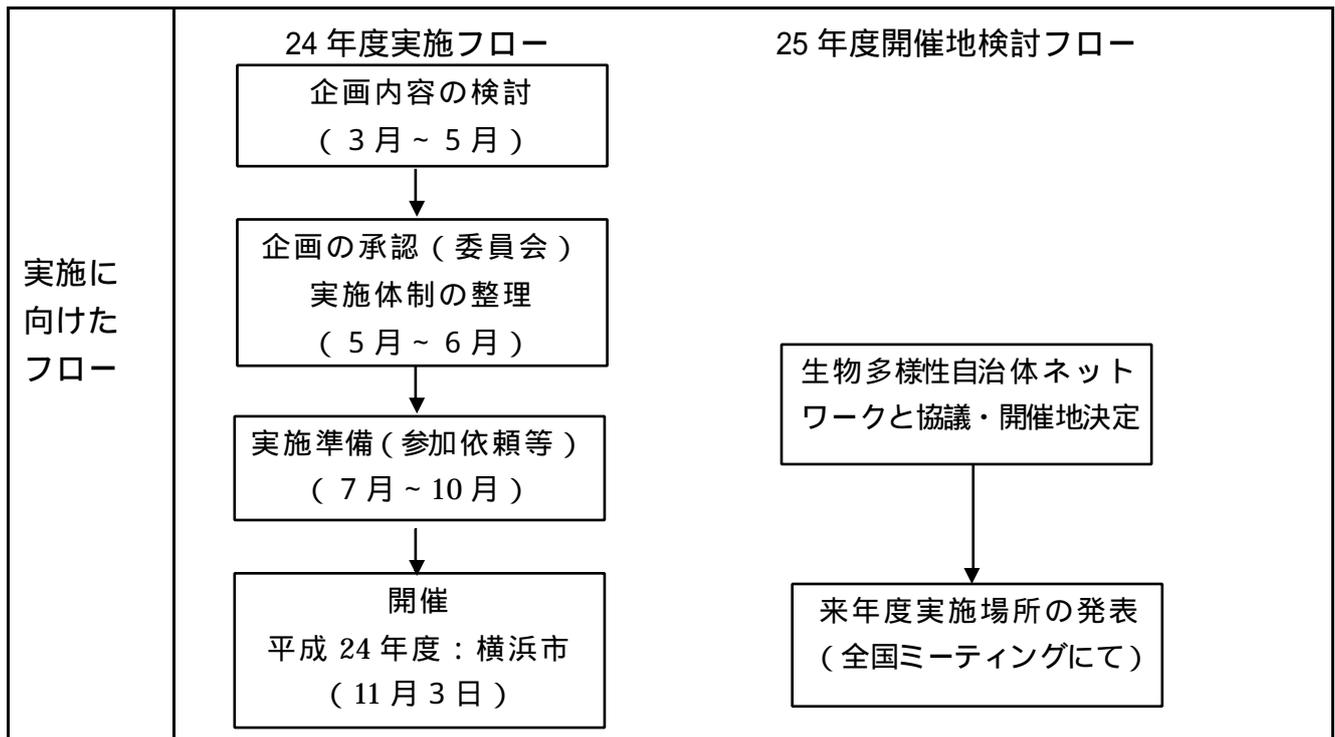
(5) グリーンウェイブ

- ・参加方法やこれまでの実施事例をわかりやすく記載したリーフレットを作成して広報を強化するほか、UNDB-J や各委員等から各セクターに働きかけ

6 . ウェブサイトによる発信

- ・各セクターの情報収集・発信方法を検討
- ・メールマガジン等も検討

事業名	1. 生物多様性全国ミーティング
事業概要	<p>(1) 趣旨 国連生物多様性の10年日本委員会に参画している様々なセクターの代表が一堂に集い、各セクターが行う生物多様性の保全と持続可能な利用のための取組について、発表・意見交換するとともに、セクター間での連携を深めて行くことを目的に実施。</p> <p>(2) 開催日時・会場 平成24年11月3日(土) 13:00~17:00 はまぎんホール・ヴィアマーレ(西区みなとみらい)</p> <p>(3) 主催 国連生物多様性の10年日本委員会、環境省、生物多様性自治体ネットワーク(愛知県・横浜市)</p> <p>(4) 参加団体 青少年団体、NGO/NPO、企業等民間団体、関係公益法人、地方公共団体、関係省庁等 UNDB-J に関するあらゆるセクター</p> <p>(5) 開催方針 ・愛知ターゲット達成に向けた各セクターの取り組みの進捗確認や優良事例発表などにより、生物多様性主流化の進捗状況を確認。参加することにより、生物多様性の最新情報や動向が把握出来る場とする。 ・今年 COP11 の成果・課題のフィードバックや生物多様性国家戦略改訂内容の報告も合わせて行う。 ・にじゅうまるプロジェクト、My 行動宣言への登録、UNDB-J 活動への理解を促す場とする。</p> <p>(6) 関連行事との連携 10/27(土) ヨコハマ b デイ (主催: CEPA ジャパン・横浜市) 11/3(土) AM: 生物多様性自治体ネットワーク定期総会 & フォーラム (主催: 生物多様性自治体ネットワーク) 11/3(土) PM: 生物多様性全国ミーティング 11/3(土) よこはま環境行動フェスタ (主催: 横浜市) 11/3(土) 農と緑のふれあいまつり (主催: 横浜市) 期間中、FMヨコハマにおいてキャンペーン実施 ・市民による地域の生物多様性保全活動の発表イベント「ヨコハマ b デイ」を自治体が主催し、地域メディアが1週間情報発信する生物多様性ウィークと、そのフィナーレとなる、「自治体ネットワーク総会」「全国ミーティング」を有機的に連動させる。 ・ビジネスセクターも「民間参画パートナーシップ会合」「いきものにぎわい企業コンテスト表彰式」等を併催するよう企画調整する。</p>



プログラム(案)

時間	項目	内容
13:00～ 13:30	開会挨拶、環境省発表	・生物多様性国家戦略改訂内容の発表 ・COP11の成果課題・フィードバック等
13:30～ 14:50	セクターの課題、最新動向等、UNDB-Jの委員等による発表(各10分程度)	自治体、経済界、市民セクター、ユース、動物園水族館協会、学术界、第一次産業関係者等
14:50～ 15:00	休憩	-
15:00～ 16:00	各セクタートップランナー(優良事例)の10分プレゼンテーション	全国6団体程度の様々なセクターによる活動報告と進捗確認
16:00～ 17:00	大交流会(ポスターセッション)	オープンスペースにおいて、各団体の自由な発表の場を設け、参加者同士が自由に交流可能な場を提供する。

検討課題	<p>できるだけ全てのUNDB-J委員(セクター)が参画・登壇できる機会を作る。地方への拡散や波及効果を目的として、ネットでの配信等も検討する。速やかに平成25年の全国ミーティング開催地の検討が必要。(開催地は自治体ネットワーク代表自治体ともなる。)</p> <p>一連の行事を盛り上げるために、横浜bデイ実行委員会に、UNDB-J寄附金を拠出することも検討。</p>
------	--

事業名	2 . 特別事業 (リオ + 20、 COP11 対応)
事業概要	<p>(1) リオ + 20 サイドイベント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サイドイベント (6/13 ~ 24) 日本パビリオンにて、委員会の活動紹介パネル展示。 ・ 「 KIZUNA MESSAGE for Biodiversity 」 (6/18 12:45 ~ 14:15) 日本パビリオン内の多目的スペーステントにて、「生物多様性と震災復興」をテーマとするイベントを、公益財団法人オイスカ、イオン株式会社、経団連自然保護協議会と共同で開催。 「生物多様性と震災復興」をテーマとする主催団体の活動紹介 子どもたちによる「自然と共生する未来へ向けた世界子ども会議 in 東北」の活動報告と共同宣言「未来への約束」 会場参加型イベントとして、Origami Green Wave プログラム <p>(2) COP11 に向けた機運づくりと COP11 サイドイベント等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ COP11 開催に向けた国内の機運を盛り上げるため、地域セミナー・ワークショップ (名古屋) や、各セクターが開催するセミナー・イベントとの連携、カウントダウン 100 等の企画を推進する。 ・ 広報キャラクター「タヨちゃん・サトくんと仲間たち」と地域戦略を策定する自治体のキャラクターとの「サトタヨゆるキャラ協定 (仮称) 」 (もしくは宣言) を結ぶことで、メディアを通じた盛り上げの仕組み作りをする ・ 流通企業や書店等との連携による COP11 の広報やその仕組み作りをする ・ COP11 では、パネル展示やサイドイベント、CEPA フェアなどの機会を通じて、UNDB-J の具体的な活動や各セクターのトップランナー・優良事例の紹介等、日本の取組を伝えるとともに、他国でも国内委員会設置の機運を高めてもらうようにする。
検討課題	<p>COP11 での委員会活動の紹介展示やサイドイベント等は、今後の各国、日本政府の動きを踏まえ検討する 経費については、寄附金の活用も併せて検討する。</p>